

チリ 2024-25年度のサクランボと生食用ブドウ輸出シーズンの総括

[FreshPlaza 2025年6月19日](#)

「チリはブドウの輸出量が5%増加したが、ペルーは全世界への出荷量が32%増加した」

2024-25年度のチリのサクランボと生食用ブドウの輸出シーズンは、価格の急落、外部との激しい競争、及びそれに不利に働いた国際物流によって特徴づけられる。

(サクランボ)

ケレンフルーツ社の商務部長であるニコラス・ミケリーニ氏は、「チリはサクランボの輸出量を50%増加させたが、価格は33%近く下落した。FOB価格は、1箱当たり平均30ドルから20ドル未満に下落した。これは、特に収穫時期が遅い生産者の収入に直接影響した。さらに、中国に果実を輸送していたマースク社の船舶の事故により、積み荷が中国での販売を許可されず破棄せざるを得なかったため、大きな損失を引き起こした」と述べた。(以下「」は同氏の話)

中国市場(チリ産サクランボの90%の出荷先)への依存が明らかになった。業界は現在、米国、ブラジル、ヨーロッパをターゲットにして、市場の多様化を模索しているが、この移行には時間がかかる。「中国はチリのサクランボ産業の原動力である。製品の品質を確保し、糖度の低い柔らかい果実を避け、大玉(26mm以上)の出荷に焦点を当てることで、競争力を取り戻すために不可欠である。」

「この業界は、過去10年間のような年率25%の成長を続けることはないだろう。今年は成長が見込まれるが、そのような伸び率ではない。我々の輸出は、天候と生産物の品質によって左右される。」

(生食用ブドウ)

「終了したばかりの生食用ブドウのシーズンも厳しかった。チリはブドウの輸出量が5%増加したが、ペルーは全世界への出荷量を32%増加させた。チリ産ブドウの主な出荷先である米国は、昨年より47%多いペルー産ブドウを輸入した。このことで、チリ産の果実が輸出先で長期間貯蔵されていること、再包装の必要性、さらに滞留に伴う果実の損失についてある程度説明がつく。1月中旬の米国の港湾危機も在庫管理に関する憶測を呼び、それもこの状況の一因となった。」

「出回り量の多さ、前シーズンと比較した海上運賃の上昇、輸出先での貯蔵コストの上昇、及び米国への輸入に対する10%の関税によって価格圧力が増し、チリの生産者の収益はさらに減少した。」

「ブドウに関する弊社の戦略は、遅めの収穫時期を選ぶこと、オータムクリスプやスイートグローブなどの需要の高い品種を使用すること、消費者向けの最終形態での包装(小型のクラムシェルやバッグなど)を原産地で実施する能力への投資を増やして再包装コストを削減するとともに米国とヨーロッパの小売店へのアクセスを改善すること等である。」

「弊社のより幅広い戦略は、既存の取扱品目(サクランボ、ブドウ、柑橘類、ナッツ類)にペルーの400ヘクタールの土地で栽培しているブルーベリーなどの新製品を加えて品揃えを拡大することである。我々は、現在200ヘクタールで進行中の初めての収穫から3千トンの輸出を計画している。」

近い将来、戦略的な調整が必要である。同社は、チリの輸出業者との国内競争や地域内での競争に直面しており、一方ペルーは厳しい圧力をかけている。「安定性は、市場への適応にかかっている。適切な品種を選択し、生産性を向上させ、最終消費者に直接アクセスできる形で進歩を遂げることだ。」

執筆者: ダイアナ・サジャミ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)